第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：公共事業評価（２）	
日付：１１月　３日 （月）曜日、セッション時間：　１０：４５～１２：１５	
司会者名（所属）：金子 雄一郎 （日本大学）	
討議内容	セッション全体： 旅客交通時間価値, 中国の都市交通評価体系と指標, バリア構築論（進化的に安定な地域システム）という多様なテーマについて，それぞれ活発な討議が行われた（以下参照）．なお，個々の内容は大きく異なることから，全体を通した討議は行っていない．
	（発表番号） 発表者名 （所属）：（２６４）加藤 浩徳（東京大学） ・時間価値の算定方法については，費用便益分析の使途（例えば異分野間のプロジェクトの可否）という視点から考える必要があると思われる． ・メタ回帰分析の推定結果について, 係数が大きめであるが海外の研究でも似た傾向である．なお, 英国の研究ではサンプル数が 2,000 以上という事例もある．また地域ダミー（関東圏）は，いろいろ検討したがいずれも有意な結果となった（交通整備の充実度が関係している可能性）．
	（発表番号） 発表者名 （所属）：（２６５）河合 正吉（豊田都市交通研究所） ・交通評価体系の説明相手として，結果のみであるがインターネットで市民に公開されている． ・評価指標と政策のビジョンやミッション，予算制度との関連については，現時点では十分把握していないが，評価の目的や内容は記述されている． ・評価指標の見直し状況として，2000 年～2007 年では特にバスに関する項目が増えている．
	（発表番号） 発表者名 （所属）：（２６６）谷口 守（岡山大学） ・バリアの範囲は内生的に決まるのか（計画は追随的），最適な範囲があるのかという点について，現在は両方が混在しており，どちらかを選択すべきと考える． ・かつて地方圏にブロックはあったが，ネットの出現でブロックは崩壊している． ・階層構造の例として EU が挙げられるが，ここでの対象とはスケールが違う． ・バリアという表現は誤解される可能性があるのでは（ソーシャルキャピタルなど，地域で取り組んでいくことという意味と思われる）．